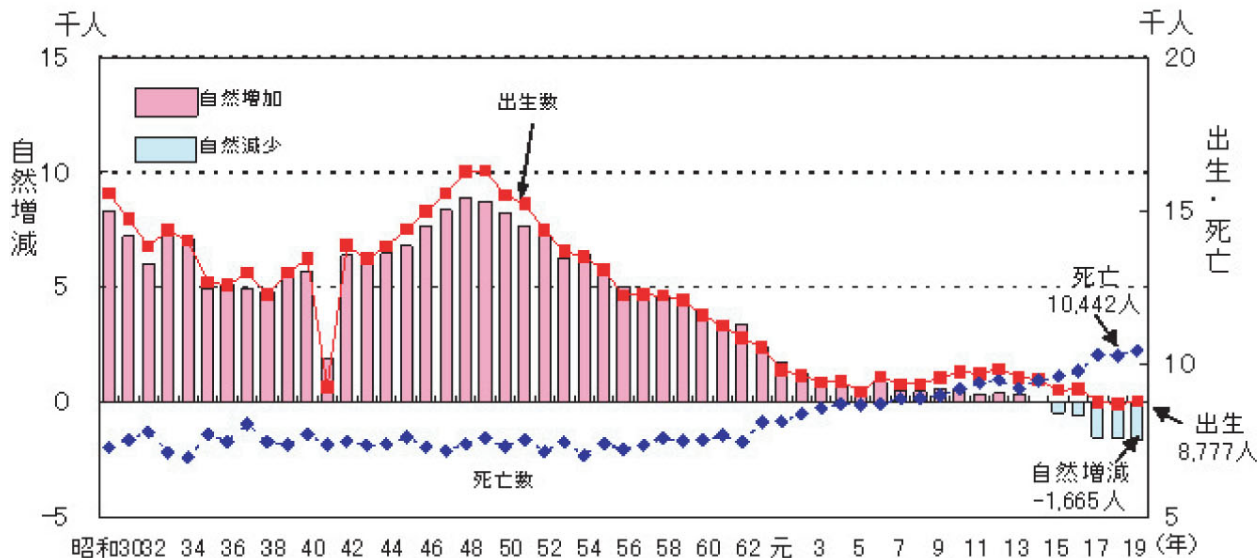


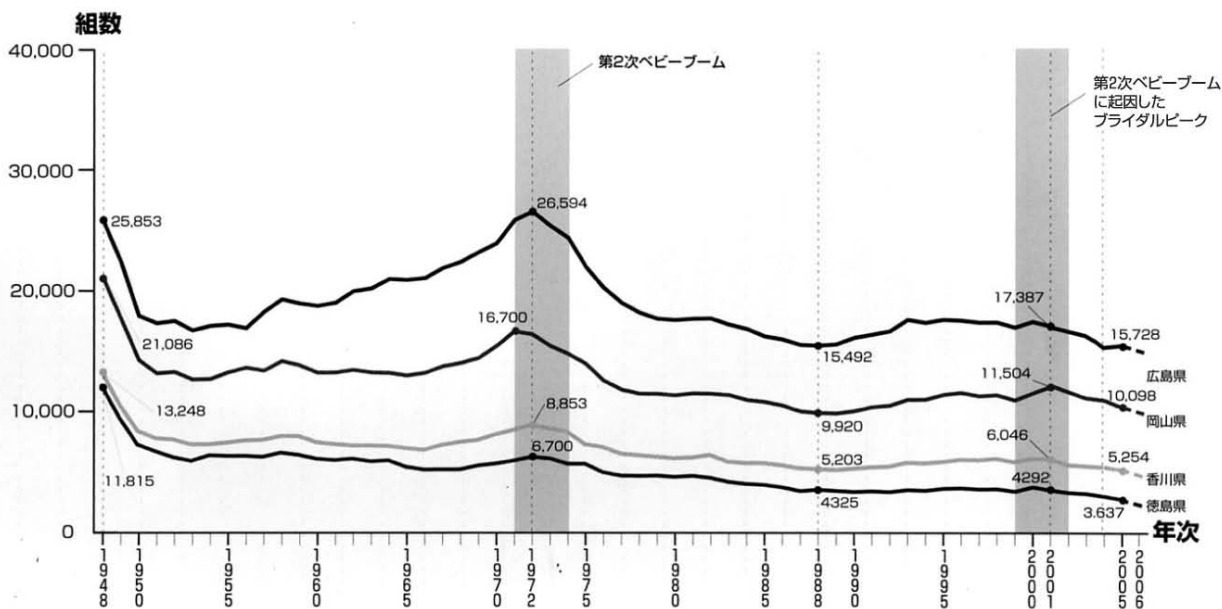
【イマドキの結婚事情】

1. 少子化による婚姻届出数の減少



●香川県の自然人口動態の推移 (平成19年 香川県人口移動調査速報)

平成19年中の人口動態は、自然動態(出生・死亡)が1,665人の減、社会動態(転入・転出)が1,394人の減で、合わせて3,059人の減少(人口増減率△3.0%)。平成12年から8年連続の減少となっており、減少数も前年に比べ188人拡大している。



●広島・岡山・香川・徳島各県の婚姻件数の推移 (厚生労働省調べ)

1947～1949年のベビーブームにより、1970年代前半のブライダルピークが形成され、1971～1974年の第2次ベビーブームを引き起こした。同様に、第2次ベビーブームによるブライダルピークもすでに終焉を迎えている。2001～2004年にかけてのわずか3年間で、10%以上も婚姻件数が減少しており、この傾向は今後も加速する予測。一方、入籍のみで結婚式を行わないカップルが全体の3割以上を占めたり、再婚カップルの増加など、ライフスタイルの変化に伴い結婚式のあり方そのものにも変化が見られる。

2. 若者たちの生活の多様化による晩婚化

(国立社会保障・人口問題研究所 出生動向基本調査より)

◆交際相手のいない未婚者 (18歳～34歳の未婚者対象)

1987年	男性	48.6%		
	女性	39.5%		
2010年	男性	61.4%	→結婚を望んでいない	27.6%
	女性	49.5%	→結婚を望んでいない	22.6%

◆平均婚姻年齢(初婚)の年次推移

1975年	男性	27.8歳	女性	25.2歳
1995年	男性	29.7歳	女性	26.9歳
2005年	男性	31.7歳	女性	29.4歳
2010年	男性	31.7歳	女性	29.4歳

※1975年から比較して【夫は3.9歳】、【妻は4.2歳】上昇。

晩婚化は確実に進んでいる。更に、女性の方が晩婚化が顕著。

◆晩婚化の背景

◎結婚の利点

男女ともに「自分の子どもや家族をもてる」が顕著に増加。
一方で、男性は「社会信用や対等な関係が得られる」「生活上便利になる」が減少傾向にある。
女性は、「精神的な安らぎの場が得られる」「愛情を感じている人と暮らせる」が減少にあり、「経済的余裕がもてる」が増加傾向にある。

◎独身生活の利点

男女ともに「行動や生き方が自由」が圧倒的に多い。
「金銭的に裕福」「家族扶養の責任がなく気楽」「広い交際範囲を保ちやすい」が比較的多い。
※これらの傾向は、1987年調査とほとんど変わらない。

↓

独身生活にメリットがあって結婚しないのではなく、結婚生活にデメリットを予想することで、未婚を選択しているのではないか？

3. 晩婚化による結婚式ニーズの変化

(リクルート社 結婚情報調査により)

◆アラサー・アラフォー結婚

2005年 30～39歳で婚姻する女性の割合 30.8%
※30代カップルが増加している。

◆女性の晩婚化による結婚式ニーズの変化

2005年 結婚費用の全国平均 【397万円】(2002年より15万円UP↑)

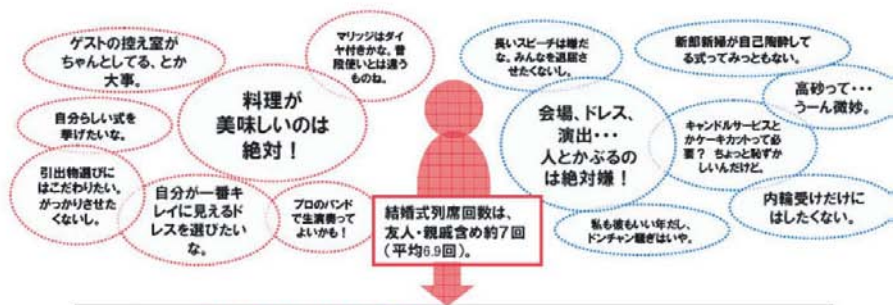
※晩婚化に伴い目の肥えた花嫁が、
自分の結婚式では衣装や料理等にこだわる傾向にある。

大人の女性にふさわしい「本物」を求める30代女性たち



【アネーロ】

(株)リクルートが、H19年5月、30代の女性をターゲットにしたウエディング情報誌を創刊。「アネーロ」とはスペイン語で「憧れ」の意。



- 列席者を「おもてなし」したい気持ちが強い 「料理はもてなしの重要要素!」
- 演出に意味を求める=本質追求 「中身の無い・意味の分からない演出はやりたくない...」
- 自分の美を追求する 「着たいドレスよりも、似合うドレスを選びました」

「セクシー30代読者のウエディング観」より